

植物多様性センターの「フクジュソウ」

キンポウゲ科の多年草で別名元日草ですが、新暦の元日には芽が出るくらいで花はまだです。旧暦の元日(今年は2月5日)近くなると咲き始めます。日の光を浴びて花弁を開きますが、光ではなく温度に反応して開くと考えられています。パラボラアンテナの様な花弁は太陽光を集め、花の内部の温度を外気温よりも高めます。その結果昆虫に生活の場を提供するだけでなく、花粉の発芽や花粉管の伸長や種子の成長が促進され、結実成功率が高まることが知られています。夏には地上部が枯れ、次の春までを地下で過ごす典型的なスプリング・エフェメラルです。



10時に撮影した株
寒いため花は閉じている



花の周囲の温度は 13.1°C(左)
中心は 18.8°C(右)で約 6°C高い



同じ株を 12時半に撮影
日を浴びてパラボラを広げる



更に 16時半に撮影
気温が下がり花は閉じる